

消水あかね

地球には多くの生き物が存在する。動物、鳥、 魚、虫……

近代以降、生き物の短歌は賑やかでバラエティーに富んでいる。

動物

(けだもの・ け もの

寒まさる山 泊き坂のぼりつつおもう たふれたるけものの ぞろぞろと鳥けだものをひきつれ の毛物ら大いなる朝 骨の 朽ちる夜 尾はことに 陽のぼるを人より待たむ 仮も呼吸づまるば²れて秋晴の街にある 太きがよろし人もけも かり花散りつづく そび行きた 0) L

佐佐木幸綱 伊 前川 藤 佐美雄 彦 斎 藤史 『瀧 『植 霊 0) 魚歌 物祭 0) 時 風 間 2022年 1 9 9 9 9 3 4 4 0 0

乏

しろき犬せなの

巻毛のつややか

に

日

に

眠

るかな芝も青

3

ぬ

おまえ 犬の毛に 立とまりふと耳 犬の 家が V 木立 に に ねたみあ は ブラッ て敵意を知 行 0) く先あ 奥 シあ いらは たつる 流 れ る る に 7 て愛し、 ゆき少女 親 か野良犬が といふ犬に 犬に きし め 仔 る妻も 犬も が 3銀座 見え 顔こ 犬を曳きて帰 並 め 貧 J 0) び 夜を潑 耳たて うちから我は ĺ Ō き一生終るかの夢をおびやかすべし りきぬ てを 刺と行く 吠 えらる

> 佐 1木治綱 山川 五島美代子 柳 片山 子 『続秋を聴く 広子 『木苺と影 『暖 『翡 流 翠 1 1 1 9 932年 9 936年 1 0年 6 年

佐

竹山広

『一脚の椅子

1

995年

須田 昌 黒岩剛仁 子 『木· 立. 『天機』 0) 奥 2 0 0 2002年 8年

の靴をくわえてゆうぜんとくる

京原亜

子

『森

の苺

2

1

0

佐佐木幸綱 春 のテオド ル 2 0 2 1

生

間

が年齢

を追ひ越して犬の仔よさう速く走るな

ーとかわ

たる

からにに

んげ

h

牛 0) む れ # 0) む れ また 牛 0) む 1 夕 É 7 り わ たる 向 う 0 堤 を だ す 石 Ш 不二子 Ш 田 順 野野 0) 青 淵 繭 1 1 9 9 8 3 0 0

牛 用 0) S 広 ほ $\overline{\zeta}$ とけ なりてとまどふ仔 豚 0) ほ とけ とな 牛ら Ď た り 0) Ŕ _ つ \Box 跳 躃 ね 疫 ょ ŋ つ 跳 Ŧī. 年 ね 3 0) な駆 過 ぎ 7 け い

月

0) 夜 0) 4: 舎 に 草を食 む 顏 をの ぞきみす h ば ___ 斉に 向 <

> 服 部崇 彦 『遠音よし F 遠 鳥の 見よし』 骨 2 2 0 0 1 1 7 7 年

伊

藤

まな つしぐら駒 か ひ 0) 葵うるさみ 走 5 L 7 縦横 首 2 ħ に る 銀 祭 0) 0 鞭 馬 5 が る 2 秋 ぽ 風 ح 0) ぼ 人 と ほ る 佐 木

降 0) 雨 0) 最 中に 我 が . 馬 口い水泡ないのでは この青紙 来 た る

恋も思索も断つはげしさぞ馬二 0) 一頭仕立 てて荒地 を拓 耕し お り

名 は 茜 子 う の 名 は雲なりき丘をしづかに下る野 生 馬

> 信綱 銀 0) 鞭 1 9 1 3 1

下利

玄

路

1

9 9

2 2

4 1

郎 佐 佐木幸綱 且. つ耕し 木 Ĭ. 『夏 つ歌る 0) 鏡 1 1 9 9 7 4 6 3

年

伊 高 1 辻郷子 藤 彦 『農 号 0) 座 0 歌 標 1 1 9 9 9 9 5 2

母

生と死とせめ

い ぎ 合

15

寄

でせ合

になす渚

蹴

る充

実

0)

わ

が

馬

ょ

砂

春 前 に来 0) 子 をみごも 7 餌 声をし あらそふ鹿の 角 かそか に 触 れ i 林 わ 眀 れ る は ききき た n

る 鹿 0) ゆ ó さり を歩 きくるとき

> 倉 石 理 Щ 恵 下 陸 銀銀 奥 0) 春 魚 2 1 0 9 1 3 5 1 年

猫

白ばらなる 南,顏 京がよれる タン 青 塀 0) が Ĩ 夜 磁 ま ゔ゙ゔ ŋ 0) 0) ボ Ł 壺 力 5 Ł 口 フ 切 工 は か が 0 れ B 如ど小 7 け 飛 猫 猫 ば び 3 0) 下 7 子 か か す ŋ 0) る ĺ B S 夜 猫 つち ځ 擾 つ 0) よと 乱 眼 残 は 差 ŋ 0 遊 た ぬ 43 意 5 ゆ す Ź 欲 秋 Ź ح 春 に 起 充 な 0) きん Ď 7 家 ŋ b る

ひそや

か

に

猫

Ó

な

を

ゅ

Ś

痙

孿

とい

気配

下

を

だ立

足 り

か か

せや

り

てる

た

り

0) 0)

ケ

ン

見

に

行

<

0) 1) ま

匂

71

S 夜

た

にすら

嗅 歌 に

ぐが猫

よか

べはし

きメ

1 h で ふ

ル

0)

数

々

知 り 力 は

る

Ŕ

0) 7 0)

肉 ぬ 眠

球

がる 穿

たの

帝

0)

恋を踏

で行 猫 肉

きた

佐 木治 |岡冬野 田 藤佐知子 晶 鍋美恵子 綱 子 『続秋を聴く』 『空は青 河 』 風 「蜜 0 峠 糖 水 L 2 1 1 1 1 9 9 9 9 () 9 6 6 4 8 4 4 0 1

佐

佐

木信

綱

『新

月

1

9

1

2

佐藤 花美月 モニカ ゕ はうその 夏 0) 領 域 賦 2 2 1 1 7 5

27

同 じ名 の犬・ 猫 多き病 院 に 鈴 木 チ ェ 口 ちゃ h 姓 t 呼 ば れ 7

鈴木陽美『スピーチ・バルーン』2018年

【いろいろな動物】

足跡は足跡が消し地に埋もるサバンナを生き、去りしものたちしなやかに野を跳ぶ豹も見ず終るわれの一生か多摩川の辺に白きうさぎ雪の山より出でて来て殺されたれば眼を開き居り雲しづむ夕牧のはてに点々と羊は黒き星のごとしも

佐佐木由幾『半窓の淡月』1989年斎藤史『うたのゆくへ』1953年

クレヨンに描かれてゆく麒麟なりさうだ象よりずつと喬いぞニュ

三宅徹夫『クレオパトラの夢』

象の鼻ちやうど地表を擦る長さ世界は土の匂ひだらうか

馬だっておしゃれなんだよころがって秋の日ざしのかたまりになる 小紋潤 『蜜の大地』 2 1 6

2

1

5

か奥山かほる『安息角』2021年坪内稔典『雲の寄る日』2019年

息

河

[鳥]

鳥の声 大き鳥入りし樹に行き耳すまし梢 誰か似る鳴けようたへとあやさる 水の ひびきに 夜はあけ て神代に る緋 のけはひをうかがひにけ 房 似 0 た り山 籠 0) 美しき鳥 中 村 ŋ

鳥の群れいっせいに向きを変えるとき裏返さるる一枚の空本意などいづこにあらむかりそめのこの世あやかし鳥の鳴く駅

細溝洋子『コントラバス』2008

青木信

『汎神論

【鴉・鳥】

雀

堤おりし二人の童子鴉追ふと走せゆきはすれ広き砂 クオ・バディス、クオ・バディスと烏啼くわれには帰る家のあ 原 れども

佐佐木信綱『椎の木』1936年

桐谷文子『マザーグースの翼にのつて』2021

年

電線 もうみ に 連なるすずめ結 んな大人の 顔つき体つき冬のすずめに子供は び目を解きてどっと空へ飛 び立 はおらず つ

大谷 ゅ ·かり『ホライズン』 | 島秀憲 『すずめ』 2 2013年

動物園に行くたび 輪とよぶべく立てる鶴にして夕闇 思い 、深まれ る鶴 は の中に莟のごとし 怒りてい る にあら B

佐 木幸綱 伊 藤 『金色の獅子』 彦 月 語 抄 1 9 7 7 年 89年

【ホトトギス】

ほととぎすわれ

に

ひとりの君あ

りといふことさへもわすれ

7

聞

去去 ほととぎす螺旋 もりあがる竹 去去去 0) 林に声 去去去 に上る声透きてけさより谷戸は天に近づく つよく鳴くほととぎす人も 去去去去 つらいぞ

きぬ 玉井 慶子 合同 竹山広 九条武子 歌集 『空の空 金金 2 2003年 1 920年 007年

たいせつな人をなくして夜 のほととぎす

経塚朋子『カミツレを 摘 め 2 ō 1

6

銀色に 白萩のよよとこぼるる土の上われより先に土鳩歩むな とけやらぬ . 照りたる iPhone の看 昨 日 の雪に風さえてみ寺の 板の端で土鳩は羽を休めて 鳩もひくく遊

ŋ

印

東

昌

.綱

か

ŋ

み

7

1

922年

地 正 子 『みどりなりけ 田 山中拓也 『東京』 ģ 2 0 1 1 997年 9年

【雲雀】

なく雲雀さをどるきぎす天地に ひばりひばりぴらぴら鳴いてかけ を存をた けのぼる青空の段素をたのしむ春の野 直勢立た辺 つらし かな

佐 木弘綱 佐木幸綱 | 竹柏 夏 粛 0) 家 集 1 1 976年 9 0 0

き

佐

春の日は手斧に

光

膚

きさらぎの 闍やはら りちらばれ か に 牛 眠 ŋ る木 Z 0 頭 0 Ŀ 中に鶏あ に は に は そぶ とり 眠 る

> 濵 佐 木 信 綱 野 新 0) 繭 月 1 1 9 9 80年 1 2年

ろいろな鳥

よろこびかのぞみか我にふと来る翡翠の 布の葉の広葉に のりてゆらゆらにとゆ ħ 羽 かくゆ 0 かろきは ば らるる た き

石榑千 Ш 広子 亦 翡 海 翠 1 1 9 9 34年 1 6年

0) 樹も空なる雲もかささぎも わ れ を見 知 らぬ 街 にきて住 む

私を見ながらたつぷり歌ふ四十雀あ りがたう奥さんによろしく

石川不二子 『ゆきあひの 空 2 0 8 年

人旅今日も続けて尉 湯鶲草 取 いるわ れの前に辞 儀 す

歌集 \neg 21世紀現代短歌選 堡集6』 2

2022年

目印 0) コ 口 ラ ĺ۴ ij バ 1 に 沿うて 飛ぶ春 0) 野 鴨 を

呆と見送る 水本光 合 同 青木泰子 『幸いなるかな』

魚

卵巣に はげしき毒をもつ魚の あるとい S その 魚 がおも V n

逆流、 魚たりし する川の ヒトの 面 に 記憶を眠らせて夜を緑 ひしめきて闘 ひながら魚流 に 点 ず水 れ をり 槽

薬禍に て尾部膨 らませ歪む背の切り身となれば見分けの付 か ず

> 石川 真鍋美恵子『蜜 一成 『沈黙の 糖 火 1 1 9 9 8 6 4 4

加賀谷実 谷岡亜 『海の揺籃 紀 『臨界』 2 1 9 9 1 1 3

【金魚】

二つ三つ金魚うかせて子とあそぶ初夏 0 日 0) 水 小に光れ る

> 原 白 蓮 『紫の 梅 1 9 25

金魚の 本借りてきた朝から金魚の 病気つぎつぎい でて日 々ただならぬ

木尾悦子 驟 兩 0) 中 Ó 噴 永 1 9 9

年

【いろいろな魚】

どこまでが夢かわからぬ かすかに臭がうごきい け すに て鰭ふる鮒と雷 魚 だと泳

たりゆた りと鯉 が 泳 げ り 足立晶子 ゆ B 0) ゅ め 0) 1 9 95

遠山光栄

『褐色の

実

1

9

56

年

ハタハタの千の 卵の 眼 が が動く北の荒磯にぬさかひめをゆた に雪ふぶくとき

宇都宮とよ歌集未収録 (『エルキャピタンの雲』 以降

ケツに落ちた月を食い め だか の腹 はふくらんでゆく 佐佐木定綱 『月を食う』2019

曳 虫

ぼくの

持

うバ

30

虫の音 腹と づれば忽ち暗き夜 0) 海 0) 中 なる街 しの底に 道 を軽 1 ひえびえと啼く虫 寝息を乗せ走 「の声 かも

りゆ

高 畄

邦男 『インソムニア』 新井洸 微 崩 2 1 916年 16年

ふくしまの 気配せる / 闇 りゆふ 0) 外と ベ のそらがかき抱くかの面に目を凝らせば 面₺ なか /あ なのこゑ死者たちのこゑ あ 落 蟬 0) 羽撃きなりき 坂 $\hat{\Box}$ 弘 本 田 『常し 弘 への 道 2 2007年

樹にされし男も芽ぶきびっしりと蝶の 蜜吸ひては花のうへにて踏み替ふる蝶の脚 紋白蝶低くむれ飛びうつたうしき光の中キ 詰 まれ ほそしわがまなかひに ャベツは葉を固 る鞄 を開く く巻く 栗原潔子 横 山未来子『花の線画』 佐佐木幸綱 『栗原潔子 『アニマ』 歌集 2007年 1999年 1 958年

【蜻蛉】

宇宙色せし蜻蛉 たましひはおもさがあるといふやうに着水した の眼 美しく我らは夏 \widehat{o} 瞬を分け り瑠 璃 糸 蜻 蛤 佐 佐 木 頼綱

斎藤佐知子 「心の花 『帰雲』 2 1 2 0 1 1 8年7月号 年

【いろいろな虫】

教材として触られてカ 子と我と「り」の字に眠る秋の夜のりりりるりりりあれ つらぬきて沢流るると思ふまで重ねたる胸 かまきりを葬る遊びを終えし児 ブトムシ脚 パら戸口 を一 戸口 本どこかに落とす に蛍 へ姿を消 をつぶす しぬ は 5 蟋蟀

> 荻野美佐子『ひらがなの手 大口玲子 紙 1 1 998年 9 1 年

万智 奥 『オレがマリオ』 八村知世 『工場』 2 0 1 2021年 3年

俵

|その他の生き物

面 を音なく蛇がよぎりゆくひとすぢの炎ゆる金色とはなりて

真鍋美恵子 『雲熟れやまず』 1 9 8 1 年

八田亡羊

『亡羊』 2007年

【蛙・おたまじゃくし】

砲弾

がはるかな空をよぎる日

0

みずうみを脱

で蛇蛇

0)

恍

惚

醒めしばかりの耳にくくもり蛙 啼くよもすがら呼びてありしならむか

小さなる石など投げて群れたがるおたまじやくしを揶揄してゐたる 築地正子『鷺の書』 1 9 9

銀いろの水面を天としてねむる貝まぎれなき闇をはさめり

超新星あらわれるときミジンコの眼にも豊かな火のともるなり

十月の地熱は空に払われてトカゲの脱皮半分終わる

悔いありて歩む朝をまがなしく蜘蛛はさかさに空を見ており【いろいろな生き物】

安藤美保『水の粒子』

1992年

横山未来子『樹下のひとりの眠りのために』

佐佐木朋子『授記』2012年

笹本碧『ここはたしかに 完全版』2020 年

32